

ぴっぴ ニュース

このニュースのバックナンバーが
ホームページになっています!

<http://www.yuko-akagi.com/>
e-mail: yuko-akagi@nifty.com

くらしをつつむ住まいの設計

やさしさとゆとりのステージ

赤木裕子住宅設計室

赤木住研

赤木裕子住宅設計室工務部

〒300-1152 稲敷郡阿見町荒川本郷1343-85

TEL 029-842-3027 FAX 029-842-6601

スタッフ

◆あがぎゆうこ ◆さとうけいこ ◆いけだゆきよ ◆くりやまとしひこ

古民家再生とバリアフリー

実家の土蔵が壊されたことを知ったときはかなりのショックでした。しかし、住んでいる者にとっては維持費の問題など、それなりの理由があったのでしょう。

「築100年以上の古民家を建て替えたい!」という相談をいただいた時は、迷わず再生することを提案しました。現在の構造を生かしながら、使いやすく快適な平面プランを考えることには自信がありました。

ところが、段差の問題、費用の問題については、どこまで要望にそえるか?

正直明快な回答ができず、老親が車椅子生活を余儀なくされたことがきっかけとなり、「新築でバリアフリー住宅にしたい」との結論になりました。

古材を最大限利用することにして、環境に配慮し、

かつ暮らしやすい住まいづくりをしたいと考えています。



う・ふ・ふべんも楽しい暮らし

池田

「まさかあそこが池田さん家じゃないよね?」と言われるような家を購入したのは1年前。我家は3方向を広大な畑に囲まれ、200m離れて1件だけお隣さんがいる、いわゆる淋しい所です。もちろん上下水道なんてありません。とはいえ、本人達はいたって気に入っているのですが、普通の方には驚かれるような環境です。

先日、主人の友人夫婦が1歳になる男の子を連れて遊びに来ました。彼らのお家はマンションで周辺環境に土が全くないというのです。なので「子供を土に触れさせたい」とのことでした。隣の畑で土まみれになって転げ回る子供をみて「良い環境ですね～」と呟くご主人に、私は我家を褒めてもらえたようで嬉しい気持ちになりました。整備されていない環境は現在では不便なことがとても多いですが、その代わり得られるものもたくさんあります。

そんな事を改めて思えた出来事でした。



環境にやさしい行動

佐藤

「もったいない」という言葉はいまや死語になっているのかと思っていましたが、今、地球温暖化の問題で、環境に対する意識が高まり使い捨ての時代から循環型時代へと変わりつつあるようです。ある雑誌に「環境にやさしい生活とは、とどまることのない欲望から脱却しある程度の不便さをも受け入れるということにほかならない」とありました。私自身、歩きや自転車で出かけられるところはなるべく自動車を使わないように環境にやさしい行動を心がけていきたいと思います。



土の感触

栗山

私が、小学校に入学した頃は戦争後の何も無い時代でしたので通学時の履物は手作りの草履が普通で、下駄を履ければ自慢でした。こんな時代でしたので外での遊びはいつも裸足です。足裏にはいつも土の感触がありました。軟らかい土、固い土 温かい、冷たいなど足裏を通じていろいろ土の情報を知ることができました。

今はどうでしょうか!

先日何十年ぶりに裸足になって、家庭菜園の仕事をしました。最初は土に混じった小石を踏むとよろけて違和感がありましたが、我慢をして作業を続けているうちに心地よい感覚になり、足先から気持ち良さが伝わってきました。大地が治療してくれたのか肩こりがなくなっていました。

もっともっと土と遊び、昔のように土を友達にしようと思います。



「漠然とした生活上の要望」



柏市
志賀十良様



リフォーム前に自分がイメージしたものがどういう形で仕上がるのか、素人にはなかなか想像が難しいものですね。施主の「好み」とか「漠然とした生活上の要望」を汲み取ってイメージをつくり、それを形にしていくのが設計士の役割であると今回のリフォームで知りました。

「好み」で言えば「落ち着いた木質な感じに仕上げること」でしたが、まさに当方の好みにぴったり、というより、それ以上の驚きに似た出来栄えに仕上げていただきました。

「ここをこういう風に変えるとこんな感じになるのかー。」という、何か嬉しい発見をした感じです。ダイニングルームから庭につながるウッドデッキも、それをつけることでダイニングルームの景色と広がりを使い勝手がこんなにも変わるものかと驚いています。赤木設計士の腕前に感心した次第です。そして何よりも、私どもが好ましいと感じるものに赤木さんが共感してくれることが一番嬉しかったです。

もうひとつの感心、それは我が熟年夫婦の実生活上の距離感を実に見事に看破し、それを住宅の中でイメージし実現してくれたことです。住宅って見た目の印象もさることながら、しばらくそこに住んでみてわかってくる居心地の良さというのがとても大切ですね。



食堂～居間方面



食堂～書斎方面



食堂～台所方面



水廻り部分も含め、ほぼ全面リフォーム
食堂は天井が白い部分を増築
出窓を掃き出しテラスサッシに変更して
ウッドデッキと一体となるように計画。
内装は、天井の板張りはそのまま
壁は、クロスを珪藻土塗りに、一部板張り、
床は無垢のフローリングに張り替えました。
全体として風通しが良く、随所に遊びと
工夫のある楽しい住まいとなりました。

今回のリフォームは子供たちが独立して夫婦ふたりの生活になる機会に行ったのですが、妻と私との関係は遠過ぎず近過ぎず、お互い半独立よりか少し相互依存に近い。その微妙な距離感が生活空間においてもぴったり実現されています。

妻が多く時間を過ごすキッチンと私が多く時間を過ごす書斎がダイニングルームをはさんで何となくつながっている感じがとても居心よく、お互い顔を合わせたくなければそうできるし、顔を見て話をしたければその場でちょっと体をねじればそれもできる。声を届けるために大声で話す必要も無ければ、書斎に居て台所の雑音が気になるほどでもない。食と食の場が生活と家の中心にあって家族の絆、夫婦の絆の役目をしている。

「漠然とした生活上の要望」とはこういうことだったのでしょ。

夫婦の距離感は千差万別でそれぞれのご夫婦で違うと思いますが、赤木さんは我々夫婦の距離感と相互依存関係の図式を見事に見抜いていたようです。設計段階で必ず夫婦揃う日を選んで相談にお願いしたのは、実は夫婦間の距離を観察するための面接だったのですね。

恐れ入りました。

私の場合、プランニングは生活の状態を聞き取ることから始まります。

志賀様とは、生活の時間帯の問題、音の問題、熱の問題...実に多くのことを話し合ったように思います。

お互いの考えを出し合い、納得の行くまで検討することができましたので、私自身満足のゆく結果となりました。

奥様のインテリアセンスの良さが、より一層住空間を引き立たせていることに、感動しています。